

感染下のスポーツ議論

県推進審議会 今後の大会中止危惧

県スポーツ推進審議会（会長・富田寿人静岡理工科大教授）の本年度初会合が18日、県庁で行われ、新型コロナウイルスの感染が拡大している状況下でのスポーツの在り方について、委員が意見交換した。

県高体連の武田知己会長は、コロナ禍で高校生の各競技大会が中止になっていると指摘し「感染がさらに拡大したら、今後の新人大

会もできないと危惧（きぐ）している」と懸念を表明した。県スポーツ協会の石川恵一朗専務理事も、開催予定だった大会の半数が中止になったと報告。その上で「開閉会式を簡素化して競技中心の運営にするなど、古い慣習を打破するきつかけにもなった」と語った。

静岡大の杉山康司教授は「強化合宿などの団体移動で発熱者が出る可能性もあるが、相談窓口や宿泊施設のガイドラインがあれば安心できる」と述べた。常葉大の吉田早織准教授は「試合のオンライン配信などで、保護者が観戦できる環境にできたらいい」と提案した。

一方、草薙整形外科リウマチクリニックの水村珠青医師は「休校中に運動できず、再開後の部活や体育で骨挫傷を発症する子どもが多発した」と報告。今後、休校措置などがあった場合の運動再開時には十分に留意するよう呼び掛けた。